

Glocal Tenri



3

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.13 No.3 March 2012

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- 巻頭言
結婚披露宴のスピーチ
／深谷忠一 1
- 天理教海外伝道の資料 (25)
満州伝道関連史料⑩
／深川治道 2
- 天理教伝道史の諸相 (3)
燎原の火の如く—明治 20 年代の教勢伸展— (その1)
／早田一郎 3
- 現代世界に生きる「人間」と「宗教」(2)
人間はどこまで動物か①
／岡田正彦 4
- ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (最終回)
ハワイ人とキリスト教の過去と現在
／井上昭洋 5
- 福島第 1 原発の放射能漏れ事故がもたらした想定外? の波紋 (2)
樹木における放射能汚染と除染の課題
／佐藤孝則 6
- 「いのち」をつなぐ—生死の現象 (3)
死をどうしたら受けとめられるのか①
／堀内みどり 8
- ノーマライゼーションへの道程 (1)
“障害” の表記について
／八木三郎 9
- 天理スポーツ (最終回)
天理スポーツ シンポジウム⑫
／難波真理 10
- オーストラリア通信 (6)
オーストラリアのサービスと人種差別
／土井幸宏 11
- 図書紹介 (65)
『みかぐらうた—人間救済・宇宙的交響の天理讃舞歌—』
／金子 昭 12
- English Summary 13
- おやさと研究所ニュース 14

巻頭言

結婚披露宴のスピーチ

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

先号での「就活」に続いて大事な人生のイベントは「婚活」だな、と思いながらパソコンの画面を見ていると、数年前の結婚披露宴での挨拶の原稿が出てきました。

「新郎、新婦、そして、ご両家のみなさん、本日はまことにおめでとうございます。

さて、新郎、新婦及びご両家の紹介を兼ねての挨拶をするようにとご指名を頂きましたが、実は私自身は、ご両人やご両家の皆さんのことをさほど詳しくは存じておりません。しかし、その中で、私が思いますことは、生まれも育ちも全く違うし、住んでいる所も何百キロと離れていて全く接点がなかったこの二人が、よくぞ結ばれることになったなあということです。唯一の接点が天理教の信仰ということで、おかげを頂いたという以外に説明のしようがないなあと思うのでございます。

また、昨今の傾向では晩婚とは言えないまでも、二人とも 30 代でありますから、若さの勢いで結婚に突き進んだというのではないと思います。しかし、私は、もし二人の出会いがもっと若い時であれば、ご両人ともお互いのよさを認識できなかったのではないかと、思うのです。その理由はあえて申しませんが、何れにしても、今の年齢で出会ったというタイミングの妙もご守護だと思いますし、また、「よくまあ、お互いにとってこんな良い相手が今まで残っていたなあ」と、決して「売れ残り」というのではなくですね、「よく今まで、お互いに売らずに残しておいたなあ」と思うのでありまして、これも本当に神様のご加護だなと思うのです。ですから、この素晴らしい出会いをさせていただいた神様のご恩に、先ずしっかりとお礼を申し上げたいと思うのであります。

さて、それで、この二人の結婚は、一般的な言い方では、「自分を幸せにしてくれる人にめぐり合えた」になるかと思うのですが、私はせっかく天理教で結ばれたお二人ですから、お互いに、「自分を幸せにしてくれる人にめぐり合えた」ではなくて、「自分が幸せにできる人」と申しますか、「この人に幸せになってもらうことが自分の最大の幸せだと思える人にめぐり合わせて頂けた」と考えてもらいたいと思うのです。新婦は「夫は自分

をどう喜ばせてくれるだろうか?」ではなく、「どうしたら夫に喜んでもらえるだろうか?」と考える。新郎は「妻は自分をどう幸せにしてくれるのか?」ではなく、「どうしたら妻を幸せにできるのか?」と、お互いに相手の喜び・幸せを第一に考えるということです。

この話は、今のラブラブのお二人の心にはスーと入っていくと思うのですが、結婚式はゴールではなくスタートです。二人の行く末には長い人生があります。その長い人生、山あり谷ありいろいろな時があると思いますが、「自分の役目・喜びは、相手を幸せにすることだ」という思いを持ってさえいれば、どんな節目も乗り越えていけます。ですから、ぜひそのことを忘れずに、末永く添い遂げて頂きたいと、お願いしたいのでございます。

さらにつけ加えて申せば、これからのお二人の人生は、一般的に幸せを得るための条件だと考えられている「物金の豊かさや地位・名誉」とは無縁なものであろうと思います。しかし、「本当の幸せへの条件は何か」が納得できたらこそ新郎は今の人生を選び、そういう彼に新婦は添っていくと心を決めた。そのお二人の幸せは、世の人々に真の幸せを示すモデルにもなるわけですから、自分たちが決めた人生の目的・進路の根本のところを今後も決してブレないようにして、日々を心明るく通ってくださるようお願いしたいと思います。

そして、最後に、これはお二人には蛇足の話かとは思いますが、この婚儀によって倍になった親々、二人をここまで育ててくださった四人の親に、これからしっかりと恩返しをして頂きたいということです。世間の親からは、「子供が結婚したので淋しくなった」などという言葉も聞くこともたまにあるのですが、両家のご両親に、「子供が一人増えて楽しみが増えた、幸せが増した」と思ってもらえるように、常に心をつないで親孝行をして頂きたいということを最後にお願ひして、私のはなむけの言葉にさせていただきます。

「婚活」中の人に、また結果が出た人にも、筆者のように素晴らしい家庭に恵まれて、幸せな人生を送ってもらえるように、エールを送りたいと思います。